

剣道場 床建築工房

当社が施工する剣道場の床は、材料支給から
施工・技術指導まで一貫して提供いたします。

当社代表は現役の剣士で、材木商を営む無垢材のプロ
であることから一般の工務店や設計事務所とは違い、
剣道場に必要要素や決まり事を把握しています。

だからこそ当社はなるべく安全で、稽古しやすい
剣道場床をご提案させていただいております。

また、当社は環境保全のためにも
国産無垢材を100%使用した弾性床構造の
剣道場床を推奨させていただいております。

体育館などのウレタン塗装とは違って温かみがあり、
適度にクッションの効いた安全性の高い剣道場の床を
ご提案いたします。

株式会社 五感

<http://kendoujou.com/>

一剣士の剣道場に対する想い

私は小学校から剣道の修行に取り組んできました。

東京都・新木場で無垢フローリング専門道を営んでおり、今でも現役の剣士です。

これまで剣道の稽古では、アキレス腱断裂、カカトの故障、足裏のまめ等、足腰に関わる怪我は当然だと思っていました。

数年前、本格的な剣道場で稽古する機会がありました。床の違いで足腰への負担が全く違うことを初めて知りました。

そこはクッション性が高く、優しさと温かみがあって思いっきり踏み込んでも足腰に負担が少なく、足腰の弱い年配の方、ブランク剣士でも安心して稽古ができる剣道場床だったのです。

どうして同じ剣道の稽古でもこれほど足腰への負担に違いがあるのか、床材のプロとして気にならざるを得ませんでした。

それから日本中の旧武徳殿や水戸・東武館などを始めとした、古くからある剣道場の研究に取り組みました。

行き着いた答えは、
「武道である剣道は体育館で稽古するものではなく、剣道場で稽古することが本来の姿である。」
ということでした。



今日では一般的にも剣道の稽古は体育館でも行われていますが、そもそも体育館は「シューズを履いておこなうスポーツをする場所」であり、素足でおこなう剣道の稽古では、体育館の床表面に施されている滑り止め（ウレタン塗装）が剣士の足腰にとって悪影響を及ぼしているのです。

また、強く踏み込む剣道では体育館の床は硬すぎ、剣士のカカトを痛めてしまうこともあります。

ここ十数年、剣道が体育館で稽古することが主流であった私たち剣士は、これらが原因でおこる故障が「当然」だと思っていました。

なぜこのような問題が起きているのでしょうか？

一番目に、建築前の計画時点での無知・勉強不足が挙げられます。

考えてみると非常に恐ろしいことではありますが「計画が決まっているにも関わらず、剣道場床の建築方法を研究せずに剣道場という名の体育館を建ててきた」ということになります。

しかし、かくいう私も体感するまで問題に気づきませんでしたし、そもそも剣道をしていない建築士にそれを求めるのも無理があるかもしれません。

二番目に、「結局は売ればいい」という風潮が挙げられます。

建築業者や納品業者は「剣道場を利用する剣士の立場に立った剣道場作り」をしたくても、専門家が少なく、資料が少ないために建築したくてもできなかったのです。



結局、訳もわからず体育館仕様のウレタン塗装などを扱わざるを得なくなっていました。

でもそれでいいのでしょうか？

本当に自分たち現役剣士が稽古をしたい剣道場とはどのような道場床なのでしょう？

剣道界に携わっているほんの一握りの方は、無垢材で作られた剣道場床ではどれほど足捌きがしやすいか、クッション性の高い剣道場床がどれほど稽古しやすいのかを知っています。

剣道場の建築は需要そのものが少ないため、建築に関わる人々が「剣士のニーズ」を汲み取ることはとても少なく「弾性床構造の剣道場づくり」は広がることはありませんでした。

しかし、需要が少ないからと言って剣士にとって安全な道場づくりを研究しない、と言うのはとてもおかしい事だと思います。

一剣士として、床材のプロとして安全な剣道場床を広めていきたい。また、材木商としての取り組みである国産材の普及にもつなげたい。

私は自分で稽古・体感・研究を重ね、納得した弾性床構造の剣道場を世界中の剣士に提案し、日々勉強する材木屋でありたいと思っています。

できる限り私の持つ剣道場 床建築の知識をご提案することをお約束いたします。

それが私の仕事です。

株式会社 五感 前田 英樹

最適な剣道場床とは

- ・気持ちよく稽古できる場をつくる。
- ・練習生への足の負担を出来るだけ少なくする。
- ・長持ちする剣道場をつくる。

の3点から、当社では足に負担が多くかかってしまう合板フローリングではなく、無垢（本物の木を使用した）床材の利用を前提にご説明いたします。

無垢の床材であればなんでもよいわけではありません。樹種を選択していく中で、当社では剣道場を建築する際にはひとつの樹種のみを推奨させていただいております。

まず、剣道場においては床材に適度な滑りが必要になります。

滑りすぎても駄目。滑らなさすぎても駄目。

適度な滑りを持たせるには、ある程度以上、表面のやわらかさを持った樹種でなければなりません。

日本では桧か杉に絞られますが、表面硬度から考えると若干硬い桧は適切ではありません。

かの中山博道先生も同じように
「桧というのは非常にいいけれど、冬はつるつるして滑るし、かえって狂いが来る。できるだけ古い杉で、厚さを一寸以上にして通し板にするのが一番よい。高いものにつくけれど、その代わり長持ちするよ」とおっしゃっています。

また、赤みがち材でないと、白太と赤みの間に不陸が発生します。

節が多いと、節の部分に不陸が発生したり、節がとれたり、抜けたりします。

そうすると、様々な補修作業が発生し、予定外のコストがかかります。

以上の結果から、日本に豊富な資源量がある杉材で、節も少なく、赤みがちの材でなければなりません。

当社では国産の剣道場用に加工された杉材を使用しています。

私は材木屋なので桧や松など杉材以外の樹種もご提案させていただくことも可能です。

どうしても木材の樹種にこだわりをお持ちの方は、どうぞお気軽にご相談下さい。



本格的な弾性床構造の剣道場とは

- ・気持ちよく稽古できる場をつくる。
- ・練習生への足腰への負担を出来るだけ少なくする。
- ・長年使える剣道場をつくる。

の3点から、当社では足に負担が多くかかってしまう合板フローリングではなく、無垢（本物の木を使用した）床材の利用を推奨しております。

しかし、無垢の床材であればなんでも良いわけではありません。床材を選択していく中で、当社では剣道場床を建築する際にはひとつの樹種を推奨させていただいております。

まず、剣道場において気持ちよく稽古するには床材に適度な滑りが必要になります。滑りすぎても駄目。滑らなさすぎても駄目。適度な滑りを持たせ気持ちよく足捌きの稽古が出来るように仕上げなくてははいけません。

日本では剣道場の床に桧・松・杉が多く使用されますが、表面硬度から考えると若干硬い松や桧は適切では無いかもしれません。

かの中山博道先生も同じように「桧というのは非常にいいけれど、冬はつるつるして滑るし、かえって狂いが来る。できるだけ古い杉で、厚さを一寸以上にして通し板にするのが一番よい。高いものにつくけれど、その代わり長持ちするよ」とおっしゃっています。

また、なるべく赤みが多く節の少ない材を推奨しております。赤白材（源平）は、白太と赤みの間に不陸が発生しがちなようです。



節が多いと、節の廻りの部分に不陸が発生したり、節がとれたり、抜けたりして足捌きの稽古に支障が出る恐れがございます。

そうすると、節補修などの様々な補修作業が発生し、予定外のコストがかかります。

剣士にとって足裏や足腰の怪我は当然だと思っていられる方も少なく無いようです。足裏のマメや火傷などの怪我に関しては、適度な滑りを持たせることで軽減できます。

踵や腰への負担に関しては、体育館のように硬い床だと疲れが蓄積されますので、床仕上げ面、床構造、弾力性それぞれに剣道場床の為に工夫を凝らさなければいけません。

剣道場床は消耗品です。使えば使うほど表面の磨耗が激しく痛んで参ります。

また、通常早く傷む箇所はよく稽古で使用する道場の中央部分となるでしょう。

体育館などでは、一部分が傷んだとしてもかなりの面積を貼り替えなければいけません。

しかし、当社の剣道場床工法は、傷んだ板を一枚からすぐに交換することが可能です。さらに、貼り替え工期も短期間で済むことから貴重な稽古時間に支障を与えることは少ないでしょう。

そして、貼り替える面積が小さく、手間も少なく済むことから、床板交換のコストは体

育館の工法と比べて割安となります。

以上のことから、日本に豊富な資源量がある杉材で、節も少なく、赤みがちの材を推奨させていただいております。

当社では剣道場用に厳選し伐採、乾燥、加工された国産杉材を使用しています。

もちろん、材木屋ですからご希望により桧や松など杉材以外の樹種をご提案させていただくことも可能です。

どうしても木材の樹種にこだわりをお持ちの方は、どうぞお気軽にご相談下さい。

弾性床構造の剣道場床とは

剣道場の床とは総括してなにが大切なのでしょうか？

材料の厚み・長さ・幅、塗装、耐久性、工法等々、様々な要素があります。これらのいずれかが欠落しても、素晴らしい剣道場は出来ません。

剣道場床として一番に考えるべきことは「剣士の安全」です。

剣道場床は安全につくられること、とは当たり前に聞かようなことではありますが、これまでは柔道場とは違いあまり研究されてきませんでした。

安全な剣道場床をつくるため、
床材の樹種、床材のサイズ、クッション、工法、施工
これらをうまく組み合わせることで、

- ・ 安全性の保持
 - ・ 長持ちする剣道場
 - ・ コストの低減
- が可能です。



しかし、これを実現するためには「木材を吟味する知識」および「工法や施工の知識」、それに加えてもちろん「剣道の経験」が必要になります。

元来、材木屋の家系に生まれ育った私が、たまたま現在に至るまで剣道の稽古を続け、一方で、偶然にも床建築専門で独立開業し工事を請け負っていました。

この経験を生かして今後も剣道が、また、木材業界が発展していくために邁進していく所存です。

剣道場床建築の際は、ぜひ一度ご相談いただければ幸いです。

最適な塗装とは

当社では剣道場の床材は2つの理由から「無塗装」を推奨しています。

1点目に、ウレタン塗装は適度な滑りが失われるため、足腰への負担増となるためです。

2点目に、当社では塗装をしないこと（無塗装）によって得られる弾力性・滑らかさ（足捌きの良さ）・温かさを重視し、それを実現する材料を供給できるからです。

時間をかけて乾燥させた杉無垢材は、集成材などとは違い、自然な弾力性に富み、表面は適度に硬く、早材と晩材の凹凸差が出難くなっております。

また、当社では匏（カナ）で床表面仕上げるために仮導管が目詰りし難く、足裏に優しくフィットする感覚が生まれるので足捌きの稽古には最適だと思います。

この様な事から当社が供給する床材ではオイル塗装は必要ありません。

オイル塗装をすることによって、色合いはきれいに保てますが、表面硬度が上がったり、

適度な滑りと弾力性が失われる可能性があります。

但し、集成材や過乾燥木材を使用した剣道場の床にはオイル塗装を施した方がよい場合もあります。

私どもでは、元来そのような材料をお勧めいたしません。既に施工された剣道場の床で「極度の滑り」や「磨耗」が気になる方はどうぞご相談ください。

木材は、もともと防カビ性や防腐性、ある程度の耐磨耗性も兼ね備えた材料です。

実際に何十年も使われてきた道場でも木材の表面に勝手にカビが生えるようなことは絶対にございません。

あまりにも人間が木材に手を加えすぎることによって木材の優位性や良さが失われることがあります。

剣道場建築において床材は非常に重要な部分です。

剣道場の床をご検討の際には、ぜひ木材の専門家にご相談ください。



メディア紹介事例〈1〉



剣道日本 2012年2月号 (スキージャーナル社)

メディア紹介事例〈2〉



▲日刊木材新聞 平成23年12月2日



◀日刊木材新聞 平成23年3月12日

▼剣道日本 2013年10月号（スキージャーナル社）

そのケガの原因は、
「床」の仕業かも知れません。

剣道場床建築工房

剣道のことを一番に考えたから、国産無垢材100%になりました。

http://kendoujouu.com

剣道場建築 株式会社 五感

東京都目黒区東清水1丁目6-13
電話:03-3522-4169
info@kendoujouu.com

新道場は踏み込み音がとてこよく響く。壁や床の材質はせず、その分にもよるがこれだ。

の場所に移す必要が生じたため、周囲の環境は大幅に変わりました。

「エクス」を使って図面を描き、後は設計士の方にお願いしました。要は地下野士の部分に必要で、壁や床の材質はせず、その分にもよるがこれだ。

「床は、床の材質はせず、その分にもよるがこれだ。」

「床は、床の材質はせず、その分にもよるがこれだ。」

「床は、床の材質はせず、その分にもよるがこれだ。」

佐野山崎高等学校。男子部員は3年生29名、2年生10名、1年生5名。女子は3年生は6名、2年生は7名、1年生は5名。

佐野山崎高等学校

9回目の挑戦で越えた壁

佐野山崎高等学校が、初めて「剣道」の部員を募集し、今年、9回目の挑戦で越えた壁。

佐野山崎高等学校は、今年、9回目の挑戦で越えた壁。

佐野山崎高等学校は、今年、9回目の挑戦で越えた壁。

佐野山崎高等学校は、今年、9回目の挑戦で越えた壁。

佐野山崎高等学校。男子部員は3年生29名、2年生10名、1年生5名。女子は3年生は6名、2年生は7名、1年生は5名。

剣道場床 施工例



- 1. 栃木県 佐野日本大学高等学校剣道場
- 2. 岐阜県 神武館 神山道場
- 3. 東京都 私立高等学校剣道場
- 4. 栃木県 福心館剣道場
- 5. 千葉県 松武館剣道場

- 6. 東京都 個人住宅剣道場
- 7. 宮城県 個人住宅剣道場
- 8. 東京都 個人住宅剣道場

剣道場 床 建築 工房

<http://kendoujou.com/>

株式会社 五感

東京都江東区新木場 1-6-13 木のくに屋ビル 4F

Tel : 03-3522-4169

受付時間 9時～18時（毎週水曜定休）

Fax : 03-3522-4170

E-mail : info@kendoujou.com